

〔全体の評価講評：通所介護（デイサービス）〕

《事業所名：デイホーム高円寺北ふれあいの家》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	買い物支援サービスの導入を図り、在宅生活を支援している
	内容	今年度、法人全体として始めた「生活基盤型通所介護」サービスを始めるにあたって、当事業所では買い物難民が全国に約600万人にのぼると推察し、当事業所の周囲に在る4つの商店街である社会資源を活用しようと、職員が付き添って一緒に地域の商店街で買い物をし、荷物は帰りの送迎車で自宅まで届けるサービスを始めた。買い物が一人では困難な方にとっては、実際に品物を手にとり、選択、購入できる。また、何をかうのか迷う楽しみも享受している。利用者が何時までも地域で、自宅で過ごせるようにとの支援の姿勢は評価に値する。
2	タイトル	月1回以上、行事・イベント・外出活動を提供している
	内容	入浴サービスがないことや自立度の高い高齢者の割合が多いことから、月1回以上、行事・イベント・外出活動を提供している。1月は初詣、春にはお花見やバラを見に行き、お年寄りが集まることで有名な寺に行き蕎麦を食べて帰る、初夏には水族館に行く、秋には飛行場に出向き飛行機を見ながら食事をする、冬にはホテルバイキングを楽しむ。その他、同一法人他事業所と合同のイベントも数々ある。例えば、小学校の体育館を借りての合同運動会、餅つき大会、中華街への外食、東京湾のクルージング等である。
3	タイトル	臨床美術の手法を使用し、専門性の高いサービスを提供している
	内容	臨床美術士の資格を持つ職員が臨床美術プログラムを提供している。臨床美術は独自のアートプログラムに沿って創作活動を行うことにより脳が活性化し、その人の意欲と潜在能力を引き出し、認知症の症状が改善されることを目的としている。担当職員は「その人の存在すること自体を喜びとして、ありのままのその人を賞賛する」という在論的人間観を基本とし、家庭訪問やサービス担当者会議に出て、プログラムの説明や協力の仕方を説明している。3か月ごとにMMSE検査法（認知症テスト）での評価も行い、その効果を測定している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	感染防止対策の観点から、手洗い場の整備が望まれる
	内容	デイルーム内に洗面台がなく、トイレ内の洗面場を使用している。職員アンケートでも事業所のさらなる改善を要する点として「トイレ・手洗い場の不足」をあげていた職員が少なくなかった。特に冬季はインフルエンザ等の感染症が流行時期であるため、在宅から通所されている利用者の方がデイルームに到着後の手洗いとうがいは感染防止に必須事項である。また食後の口腔ケアといった健康管理の観点からも改善を要する。区立施設であり、当事業所単独では解決できない課題であるが、利用者の安全性の確保としてその改善が望まれる。
2	タイトル	町会との防災協定の締結など、地域の福祉拠点としての在り方の再構築が望まれる。
	内容	町会との防災協定を締結しておらず、地域住民の方々と合同での防災訓練は実施されていあい。地域における当事業所の認知度は高いとは言えない。今後、大規模地震が何時起きてもおかしくない状況であることや、事業所の周辺地域が木造家屋が密集した地域であることを鑑みると、今後は町会や近隣施設との協力体制の構築が望まれる。また、災害時の拠点など、地域の福祉拠点としての在り方の再構築が望まれる。
3	タイトル	職員間のコミュニケーションを活発化し、チームワークを強化していくことが望まれる
	内容	評価員の滞在調査時、職員は笑顔で利用者一人ひとりへ目配り・気配りができていた。利用者調査では、接遇マナーに関して回答者の約88%が満足、事業所のサービス全体に関しては回答者の80%が満足で、利用者から高い満足を得ている。しかし、職員アンケートでは、職員間のコミュニケーションに課題があることがうかがえた。また「やる気向上」に関する自己評価が低いこともうかがえた。職員間のコミュニケーションを活発化し、チームワークを強化していくことが望まれる。